

社会学文献調査への回答方法 (2010年1月)

日本社会学会会員の皆様が2009年に発表された文献およびそれ以前発表の文献で「社会学文献情報データベース」に未収録の文献の調査を行います。昨年と調査方法や書式は同一ですが、下記の注意事項をご一読ください。

受付対象：社会学関係の著書・編書・訳書，論文（翻訳論文を含む），その他（書評，新聞記事，学位論文，ビデオ等）で，つぎのどちらかにあたるもの（発行日付は奥付や表紙による）：

2009年1月1日から2009年12月31日までに発行されたもの

2008年12月31日までに発行され，「社会学文献情報データベース」に未収録のもの

URL： <http://www.gakkai.ne.jp/jss/db/>

（インターネット登録 / 登録用紙ファイル入手 / 既収録文献かどうかの確認）

締 切：2010(平成22)年3月末日

お手元に文献の現物をご準備の上、ご回答ください。

回答には、下記の2つの方法があります。インターネット上での登録が可能な方はできるだけで
ご回答ください。では登録できる項目が限られており、また登録されたデータの公開の時期が
遅くなる可能性があります。

！ インターネット登録《推奨》

まず文献資料種別を選択したあと、画面上の指示どおりに進んでください。登録した各項目について、必須項目が入力されているか、形式的な矛盾がないかなどの簡単なチェックがおこなわれます。エラーや警告があれば内容を確認して修正してください。最後に確認の画面が表示されますから、ファイルに保存するか、印刷して手元に保存しておいてください。

なお、インターネット登録は上記締切後も1年中受け付けておりますが、IBSS（「各項目の記入の仕方」(5)参照）へのデータ送付日程の関係上、できるだけ上記締切日までに登録をお済ませください。締切日を過ぎますと、IBSSにデータを登録できない場合があります。

用紙記入郵送

上記から調査用紙をダウンロードして入手してください。

同封の用紙を用いる場合、不足分は各自でA4判でコピーをとってください。ダウンロードの場合、Microsoft Word 形式のファイルと Adobe Acrobat (PDF) 形式のファイルを用意してあります。編集・印刷にはそれぞれに対応したソフトウェアが必要です。

文献1件につき調査用紙1枚を使用し、手書きの場合は、**楷書で読みやすく**ご記入ください。

用紙の郵送先：〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学文学部社会学研究室内
日本社会学会データベース委員会 宛

【回答にあたっての注意】

回答にあたっては、文献の現物をお手元にご準備の上、現物の記述にしたがって正確に記入してください。英文等の欧文情報が付与されていない場合も、できるだけ付与していただきたいと思っておりますので、ご準備ください(IBSSに登録を希望される場合は欧文情報が必須になります)。

次の文献は登録対象外です：(a) 辞典の項目、(b) 学会・研究会等の報告(報告要旨集を含む)、(c) 卒業論文(雑誌や書籍に本文が掲載されたものをのぞく)、(d) すでに社会学文献情報データベースに含まれている本の(内容の大きな変更を伴わない)重刷・重版や出版社名変更、(e) 『社会学評論』『IJJS』掲載論文/記事(別途すべて収録されるので回答不要です)。

登録は原則として著者・编者・訳者本人が行ってください。共同での著作については、重複した回答がないように、どなたかお一人からの登録にしてください。

編著(编者かつ著者)の場合は、本全体を編書として登録するほか、本の中の個々の論文についてもそれぞれ別個に登録してください。分冊で刊行された本(上下巻、全5巻など)や雑誌に複数巻にわたって連載された論文などについても、それぞれの巻が別個の文献であると考えて、1件ずつ登録してください。この場合、文献間で共通の事項についてもいちいちご記入ください。

共訳書の場合、担当部分が独立した論文である場合をのぞいて、担当部分のみを登録するのではなく、訳書全体を登録してください。

文献がすでに「社会学文献情報データベース」に収録されているかどうかは、インターネット上の検索サービス(上記URLからたどれます)でご確認ください。

【各項目の記入の仕方】

下記は調査用紙に記入する場合を想定してのものです。インターネット登録の場合も基本的に同様です。

- (1) [記入者の氏名] [所属] [E-mailアドレス] をお書きください。登録内容に疑問がある場合、後日照会する場合がありますので、ご協力ください。なお、これらの情報はデータベース作成作業のときにだけ用いられるものであり、最終的に公開されるデータベースには残りません。
- (2) [文献資料種別] 本や報告書など、冊子体をなすもの全体を登録する場合は「1. 著書・編書・訳書」に分類します。雑誌に掲載された論文・研究ノート・書評論文などは「2. 雑誌論文」です。書籍や報告書の中の個々の章や論文は「3. 編書論文」に分類します。書評論文以外の通常の書評、修士・博士論文、新聞記事、翻訳の訳者解説、ビデオなどは「4. その他」です。
- (3) 記入すべき項目は、文献資料種別によって異なります。次表の 印が必須の項目、×印が記入してはならない項目です。

	氏名	記入者	刊行年	料種別	文獻資	言語	本文の	著者名	標題名	编者名	収録書名	掲載誌	巻号	ページ	出版者	類番号	内容分
1. 著書・編書・訳書										×	×		×				
2. 雑誌論文																	
3. 編書論文																	×
4. その他																	

- (4) [翻訳コード] この文献調査で「翻訳」とは、すでに刊行されている著作を別の言語に翻訳して刊行した場合をいいます。未公開の原稿を翻訳した文献の場合は「4. 翻訳でない」をつけてください。
- (5) [IBSSへの登録希望] この文献調査の結果の一部は *International Bibliography of Social Sciences* (IBSS: <http://www.lse.ac.uk/IBSS/>) に登録されます。IBSSに登録されるのは (1) 2008年刊行の著書・編書または雑誌論文であって、(2) 翻訳でなく、(3) 調査用紙の英文表記欄に記入もれがない、という条件をすべて満たす文献の中で、同一の著者について3点以内に限られています。これら

の条件を満たす文献についてIBSSへの登録を希望される場合、「1. 登録する」に をつけてください。なお、共著は複合名で1人として扱います。

- (6) [本文の言語] [原著の言語] は、あてはまるものを で囲んでください。選択肢にない言語の場合は、「その他」に をつけて()内に「 語」とお書きください。
- (7) 著者名・標題名などについては、日本語・中国語・朝鮮語などの非アルファベット系の言語によるものは左側の欄に、アルファベット系の言語によるものは右側の欄に記入してください。なお、ハングルのものについては、ローマ字化したものを括弧書きで付記してください。
- (8) 日本語等の文献についても、可能であれば、著者名・標題名等の英語(アルファベット)表記を、右側の欄に記入してください。これはIBSS登録((5)参照)の場合は必須です。英訳標題がついていない著書や論文についても、適当と思われる英語標題をつけてください。ただし、雑誌名については、表紙・裏表紙・奥付等に英語(外国語)名称の記載がない場合には、無理に英訳をつけるのではなく、日本語名等のローマ字表記を記してください。
- (9) [著者名] はすべてフルネームで、姓、名の順にカンマ(,)で区切って記入してください。著者が複数である場合は、標題頁等に記載の順序で全員の氏名を略さず記入し、個々の人名の間をスラッシュ(/)で区切ってください。翻訳文献の場合は、まず原著者を並べ、それぞれ氏名のあとに(著)をつけてください。その後、訳者を並べ、それぞれ氏名のあとに(訳)をつけてください。
- (10) 本や報告書の全体を登録する場合には、編集者は著者に含めて考えます。[著者名]の欄に(9)の要領で記入し、それぞれ氏名のあとに(編)をつけてください。一方、本や報告書の中の一部の章や論文を登録する場合には、その部分の担当者だけを著者とします。この場合、本や報告書の全体の編集者は[编者名]の欄に記入してください。
- (11) [標題名] は「1. 著書・編書・訳書」の場合は本全体の書名、「2. 雑誌論文」「3. 編書論文」の場合はその論文のタイトルです。副題がある場合は、コロン(:)で区切ってください。
- (12) 冊子の中の一部の章や論文を登録する場合は、冊子全体の標題を [掲載誌名または収録書名]に必ずお書きください。
- (13) [ページ] 「1. 著書・編書・訳書」の場合は本全体のページ数を、「2. 雑誌論文」「3. 編書論文」の場合は、当該論文の開始ページおよび終了ページを記入してください。
- (14) [出版者] 学位論文の場合は、提出先機関を出版者とします。個人が出版者になっている報告書等については、その人名を記入したあとに、出版当時の所属を括弧書きでつけてください。
- (15) [出版地] は、都市名を記入します。IBSS登録((5)参照)の場合はアルファベット表記も必須です。識別に必要ななら、国名、州名、県名などをおぎなってください。
- (16) [内容分類番号]は、すくなくともひとつ、「内容分類コード表」にしたがって記入してください。[下位分類番号]は、家族社会学関係の文献についてだけ、「下位分類(家族細分類)コード表」にしたがって重要な順に3つまで記入してください。
- (17) [キーワード] は、できるかぎり日本語と英語で、それぞれ重要な順に3つつけてください。
- (18) 本文の冒頭、末尾、巻末などに要約(抄録等を含む)が添付されている場合は、[要約添付の有無とその言語]の「有」に をした上、添付されている要約の言語の当てはまるものすべてにをつけてください。
- (19) 翻訳文献の場合は原著についての情報もお書きください。ただし原著者については、[著者名]の欄に記入してください((9))。
- (20) [注記] には次のような情報を記入します：「 大学学位論文」「科学研究費補助金研究成果報告書」「放送大学教材」「 研究叢書資料No. xxxx」「初版は19XX年、 社刊」など。

より詳しい解説はデータベース委員会のホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jss/db/> からたどることができます。疑問の点についてはそちらの情報を参照してください。

内容分類コード表 (必ず回答を：主な順に3つまで)

1	社会哲学・社会思想・社会学史	18	社会病理・社会問題
2	一般理論	19	社会福祉・医療
3	社会変動論	20	計画・開発
4	社会集団・組織論	21	社会学研究法
5	階級・階層・社会移動	22	経済
6	家族	23	社会史・民俗・生活史
7	農漁山村・地域社会	24	法律
8	都市	25	民族問題・ナショナリズム
9	生活構造	26	比較社会・地域研究
10	政治・国際関係	27	差別問題
11	社会運動・集合行動	28	性・世代
12	経営・産業・労働	29	知識・科学
13	人口	30	余暇・スポーツ
14	教育	31	環境
15	文化・宗教・道徳	32	〔欠番〕
16	社会心理・社会意識	33	総説・概説
17	コミュニケーション・情報・シンボル	99	その他

下位分類(家族細分類)コード表 [家族社会学関係の文献に関してのみ使用します]

FAM010	家族学説・理論	FAM120	家族周期・ライフコース・生活史
FAM020	家族調査法・研究法	FAM130	配偶者選択・結婚
FAM030	家族史	FAM140	離婚・再婚
FAM040	家族制度・家族法・家族政策	FAM150	生殖・出産・中絶
FAM050	家族構造・家族システム	FAM160	社会化・教育・産育
FAM060	家族規範・家族イデオロギー	FAM170	家計・就労・家事労働
FAM071	家族変動	FAM180	家族危機・ストレス・家族療法
FAM072	人口	FAM190	家族問題・家庭内暴力・虐待
FAM080	ジェンダー・性役割	FAM200	高齢期・高齢化
FAM090	セクシュアリティ・性愛・性	FAM210	家族福祉・医療・介護
FAM100	家族関係	FAM220	死・宗教・先祖祭祀
	FAM101 夫婦関係	FAM230	家族慣行・家族行事
	FAM102 親子関係	FAM240	家族ライフスタイル
	FAM103 嫁姑関係	FAM250	親族関係
	FAM104 祖父母と孫関係	FAM260	地域・近隣・友人
	FAM105 きょうだい関係	FAM270	エスニシティ・比較文化
FAM110	家族意識・家族感情	FAM280	その他

2004年3月27日をもって改訂されました。旧FAM070「人口・家族変動」がFAM071、FAM072に2分割されました。またFAM110, FAM240, FAM250 の字句が変更されています。